

腫瘍内科 での 研修について教えてください。

腫瘍内科は2023年9月に内科系診療科として新設されました。

当科では、固形がんを対象として、標準的な化学療法、放射線化学療法、分子標的治療、免疫チェックポイント阻害療法を臓器横断的に実施しています。また、乳腺外科や呼吸器外科との連携のもと、手術前後の補助化学療法も担当しています。

進行期の患者を対象とした集学的治療・緩和医療から、根治を目指す周術期の薬物療法に至るまで、幅広いがん診療の研修が可能です。

近年、がんの薬物療法は、がん腫毎の治療から、遺伝子の情報に基づいて最適な治療薬を選択する臓器横断的な個別化医療（がんゲノム医療）にシフトしてきています。

腫瘍内科では、「がんゲノム外来」というがん遺伝子パネル検査の専門外来を担当しており、遺伝子解析を基にした病態の理解や治療の考察を、専門家による検討会（エキスパートパネル）で学ぶ機会も提供します。



腫瘍内科 講師
竹内 伸司 先生